

## 看護大学における学生の職業領域の同一性形成にむけての教育への検討

— レオ＝レオニのペッエッティエーノを教材活用して —

増 田 安 代\*

### 要 旨

K大学看護学科2年生（4期生）を対象に、青年期にある自己および職業領域における同一性形成の状態を明らかにすることを目的に、レオ＝レオニのペッエッティエーノの教材活用を通して将来看護職につく現在の自己についてみつめさせ、その後同一性地位判定尺度による同一性地位の測定をおこなった。ペッエッティエーノを通しての学生の記述内容から、職業領域形成に関するものとして「方向確実感」「方向不確実感」、自我領域形成に関するものとして「存在確実感」「存在探索中」「存在不確実感」、現在の自己への気づきに関するものとして「対自的自己」「対他的自己」の7項目のカテゴリーが抽出された。また、自我領域形成に関するもの、現在の自己への気づき、職業領域形成に関するものの順で多く記述されていた。自我同一性地位判定尺度の地位測定においては、基礎実習Ⅰ・Ⅱの経験前後の比較において差異や変化はみられなかった。

キーワード：看護学生 青年期 同一性形成 自我同一性地位

### はじめに

青年期は人生のなかでも最も自己について考える時期であり、将来を模索する時期でもある。エリクソンは、自我同一性の形成を青年期の発達課題としてとらえており、同一性とは、職業や価値観、性等における同一性の統合であり、包括的な概念と言われている。それで、職業的同一性とは職業人としての自己をどのようにみつめ決定していくのかということになる。このことについて園田は、「職業を通しての自分らしさを確かめ、自分らしさを生かし育てていく職業的姿勢」<sup>1)</sup>と述べている。

K大学は、将来看護師や保健師を志す看護系の学生の育成機関であり、入学すること自体が看護職につくという職業選択を意味している。そうした時、講義や臨床実習を通して、

将来看護師や保健師という職業に就くべく自分らしさを生かしながら、「職業人としての自己」についてみつめさせたり、動機づけをしていくことは重要な教育上の課題であると考えられる。

そこで、平成14年度の精神看護学基礎論（30時間1単位）におけるライフサイクルとメンタルヘルスの中で、青年期とメンタルヘルスにおいてレオ＝レオニのペッエッティエーノを教材として活用し、将来職業人となる自己についてみつめさせる機会を設けた。レオ＝レオニは、絵本作家であり、絵本の1冊1冊に絵描きとしての技法が生かされており、イマジネーションを豊かにしながら物語りにとけ込むことができる。今回、絵本の持ち味を活かし、カラーコピーでOHPを作製し授業を展開した。ペッエッティエーノは、自分

\*九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科

探しをする部分品の話である。看護学生である現在の自己とペッエッテイーノの「自分探しの旅」とを重ね合わせることを通して洞察させた。その後、自我同一性測定尺度を通して自我同一性地位のどの位置にあるか測定させた。

先行研究として、松下<sup>2)</sup> 小野寺<sup>3)</sup> 鎌田<sup>4)</sup> 波多野<sup>6)</sup> 安藤<sup>7)</sup> 吉永<sup>9)</sup>らが、看護学生の職業的同一性形成や職業的同一性を規定する要因や教育的要因について調査したものはみられるが、教材活用を図りながら、同一性形成にむけて現在の状態について学生そのものに洞察させていくような展開はほとんどない。

そこで今回、K大学看護学科の2年生(4期生)を対象に ①ペッエッテイーノの教材活用を通して、将来看護職につく現在の自己についてみつめさせ、どのような同一性形成の状況にあるのかについて明らかにする。②現在の自我同一性地位の分布状況を把握する。③基礎実習I・IIの経験前後における自我同一性地位を比較して変化をおとめることを目的に、将来看護職への職業的同一性の高まりがみられるような教育のあり方について検討したので報告する。

## 1. 研究方法

### 1. レオ=レオニ「ペッエッテイーノ」の講義

#### 1) 研究対象と期間

講義の対象：K大学看護学科2年生112名(4期生)

講義：平成14年5月16日 出席者109名

#### 2) 授業の展開

- ① レオ=レオニ(訳谷川俊太郎)の「ペッエッテイーノ じぶんを みつけた ぶぶんひんの はなし」<sup>10)</sup>をカラーOHPを使用し、筆者が物語を朗読する。
- ② 「ペッエッテイーノ」の物語の資料配

布。

- ③ 「ペッエッテイーノを通して現在の自分と照らし合わせて考えたことをあるがまま自由に記述してください」と記した用紙を配布し30分間記述の時間とする。
- ④ 青年期の特性について講義。
- ⑤ 加藤の自我同一性測定尺度を通して、現在の自我同一性地位がどの位置にあるのか測定する。

### 3) 教材の内容

ペッエッテイーノ じぶんを みつけた

ぶぶんひんの はなし

レオ=レオニ 訳 谷川 俊太郎

かれの なまえは ペッエッテイーノ。ほかのみんなは おおきくて おもいきったことも すばらしい ことも いろいろ できた。かれは ちいさくて きつとだれかの とるに たりない ぶぶんひんだと おもっていた。だれの ぶぶんひんだらう、とうとう あるひ かれは たしかめようと けっしんした。「もしもし、ほくは きみの ぶぶんひんじゃ ないでしょうか？」はしるやつに かれは きいた。「ぶぶんひんが たりなくて はしれる はず ないだらう？」ちょっと びっくりして はしるやつは いった。「ほくは きみの ぶぶんひんかな？」つよいやつに かれは きいた。「ぶぶんひんが たりなくて つよい はず ないだらう？」それが こたえだった。そして およぐやつが うかび あがったとき、ペッエッテイーノは かれにもきいてみた。「ぶぶんひんが たりなくて どうしておよげる？」およぐやつは そういって ふかい みずのそこへ もどって いった。「おおい！ほくは あなたの ぶぶんひんですか？」やまの うえの やつに むかって のほりながら ペッエッテイーノは さげんだ。やまの うえの やつは わらった。「ぶぶんひんが たりなくて やまに のほれると おもうかい？」ペッエッテ

ーノは とんでるやつにも きいた。こたえは いつも おんなじ。さいごに ペッエッテイーノは ほらあなに すんでいる かしこい やつの ところへ いった。「ほくは あなたの ぶぶんひんかしら？」と かしこいやつは こたえた。「ほくは だれかの ぶぶんひんに ちがいないんだ、 どうしたら さがし だせるの？」ペッエッテイーノは さげんだ。「こなごなじまへ 行って ごらん」かしこいやつは いった。 あくるあさ はやく ペッエッテイーノは ちいさな ポートでふなでした。 そとうみの おおなみに もまれ、びしょぬれで ぐたぐたに なって、かれは こなごなじまについた。なんと へんな しまだろう！ まるで こいしの やまだ。 き いっほん くさ いっほん はえて いない。 とにかく いくてい るものがひとつも いない。 ペッエッテイーノは のほったり、おりたり のほったり、とうとう つかれはてて けつまずき、ころがりおちた…… ……そして こなごなに なって しまった！ かしこいやつは ただしかった。 やつと ペッエッテイーノにも わかった。じぶんも みんなと おなじように ぶぶんひんがあつまって できて いると。かれは げんきを とりもどして じぶん じしんを ひろい あつめ、 たりない ぶぶんひんは ひとつも ないことを たしかめると、ポートへ かけもどった。 すこしでも はやく うちへ かえろうと、かれは ひとばんじゅう こいだ。 ともだちが ひとりのこらず かれを まっていた。「ほくは ほくなんだ！」 かれは おおよろこびで さげんだ。なんの ことか よく わからなかったけど ペッエッテイーノが うれしそうだったから みんなも うれしかったのさ。

#### レオ＝レオニについて

1910年オランダのアムステルダムに生まれる。イタリアに学んだ後、29歳でアメリカに渡る。イラストレーター、グラフィックデザイナー、絵本作家として活躍する。「スイミー」「さかなは さかな」「あおくとときいろ

ちゃん」「フレデリック」「ここにいたい！あっちへいきたい！」などの作品で、多くのファンに親しまれている。

#### 4). 分析

各々の記述されたレポートの中から、「自我領域形成に関する領域のものー青年期にある自分とは何かについて」「職業領域形成に関するものー看護の職業へ就こうとしている自己について」に関する判読可能なキーワードになる主文を1つ抽出した。キーワードの主文の抽出は、1回目を実施した後、2週間後に2回目を実施した。1回目と2回目の抽出した内容が異なっていた場合、2日後に3回目を実施した。KJ法を用いて分類・整理しカテゴリー化した。

## 2. 質問紙調査

### 1) 質問紙の対象と期間、方法

調査対象：K大学看護学科2年生112名  
(4期生)

調査期間：1回目(基礎実習前)平成14年5月16日、2回目(基礎実習後)平成14年10月10日。1回目の回答数109名(回収率97%)、有効回答数109名(有効回答率97%)、2回目の回答数106名(回収率95%)、有効回答数106名(有効回答率95%)であった。

調査方法：質問紙調査を集合法で実施した。

### 2) 質問紙調査の内容

加藤の自我同一性尺度を12項目使用した。

11) マーシャ(Marcia,J.E.)の尺度がベースになっており、現在の自己投入4項目、過去の危機4項目、将来の自己投入の希求の4項目から構成され、回答は6件法で求め、各項目の回答に対して1～6点を、「まったくそのとおりだ(6点)」～「全然そうでない(1点)」のように与える。逆転項目の場合は、評定点を逆転する。得点を算出し、流れ図に

従って、「現在の自己投入」「過去の危機」「将来の自己投入の希求」の位置を照合し、「同一性達成地位」「A-F中間地位」「権威受容地位」「積極的モラトリアム地位」「D-M中間地位」「同一性拡散地位」について、点数をあてはめていきながら、自己の自我同一性地位を割り出していく。

### 3) 分析

学生が割り出した「同一性達成地位」「A-F中間地位」「権威受容地位」「積極的モラトリアム地位」「D-M中間地位」「同一性拡散各地位」をエクセルで単純集計し、比率をだし比較・検討した。

## II. 結果

### 1. ペッエッテイーノを通して自己をみつめた記述内容の結果

当初109名のレポートの整理にあたり、全体の内容から社会的な役割取得としての色合いの強い「職業領域形成」に関するものと個人的な色合いの強い「自我領域形成」に関するものとの2つに分け、キーワードになる主文を各1個ずつ抽出し検討していくことにしていた。しかし、この2群に分類できない「自己意識」の色合いが強い群がでてきた。それで、「職業領域形成に関するもの」「自我領域形成に関するもの」「自己への気づきに関するもの」の3群に分けた後、判読可能なキーワードになる主文を各1個ずつ取りだし、KJ法を用いて分類・整理した。その結果、職業領域形成に関するものとして「方向確実感」12個（11%）、「方向不確実感」16個（15%）の2項目、自我領域形成に関するものとして「存在確実感」12個（11%）、「存在探索中」14個（13%）、「存在不確実感」24個（22%）の3項目、現在の自己への気づきに関するものとして「対自的自己」16個（15%）、「対他的自己」15個（14%）の2項目、合計

7項目の категорияが抽出された。繊細は以下の通りである。

### 職業領域形成に関するもの

#### 方向確実感

①ただ看護師になろうと考えていた以前とは違い、看護職の中でどんなことを自分はやりたいと望んでいるのか自分の役割探しをしている。②看護大学へ私はなんで入学したのだろうか悩んでいたが、自分探しは発達の段階で重要なので自分探しをやっていきたい。③私は祖父、両親、家族が困った時自分が一番に看護するんだという思いでこの大学に入学してきたので看護師になるため必死で毎日がんばっている。④2年生になり忙しくなったがやりたいことをやっており、楽しい毎日をすごしたいと考えている。⑤今日の講義で看護師になる自分を見つめなおした。⑥この大学でこれからの先の道のことを考えやりとげていきたい。⑦自分の夢にむかって努力をしているし、その夢への思いが強く自分をどう生かしていくかということを考えることができるようになった。⑧1年生の後期にはこの大学へ来たことについて悩んだが、今は乗り越えることができあせらず自分とむきあっていこうと思っている。⑨看護師になるために失敗しても苦しくても「私はわたしなんだ」と思うようにしようがんばっている自分が最近いる。⑩資格を取るためにきたが今は本当に看護師になりたいと考えている。⑪2年生になりハードになったが看護師になるためにがんばっている。

#### 方向不確実感

①何で自分は看護に進んだのだろうか、他にもっと自分がしたかった道があったのかもしれない。②自分の選択は間違っていたのではないかと。③現在は本当にしたいことが何であるかを模索している状態である。④この大学で勉強しているけれども本当にこれでよかったのか不安である。⑤このまま自分はやっていけるのか考えている最中である。⑥幼稚園のころからの夢である看護職が現実になったが不安がでてきた。⑦あんなになりたかった看護師だったのに現在自分にむいていのだろうかという疑問と戦っている。⑧自分の頭と努力がついていかないことから将来に不安を感じてい

る。⑨私は本当にこの大学にいていいのかどうか悩み自分のあいまいなところが嫌でたまらない。⑩看護大学へ進学することが目標で義務みたいに感じていたが、それがなくなりやる気はあるが何をすべきかわからない。⑪現在あんなになりたかった看護師だったのにこのまま卒業していいのかという疑問と戦いながら日々を過ごしている。⑫幼稚園のころから看護師になりたいと思っていたが現在悩んでいる。⑬看護職になりたいと考えこの大学へきたが将来への不安を感じている。⑭看護職として自分の今進んでいる道について悩んでいる。⑮自分は本当に看護師にむいているのか悩んでいる。⑯親の薦めできたが自分が進みたかった道について悩んでいる。

### 自我領域形成に関するもの

#### 存在確実感

①自分は自分であり自分はいらぬものではなく、どこも欠くことができない大事な役割があり尊重されるべきだと思った。②「自分は自分なんだからいいのでは」と思っていることがベッエッテイーノと似ていると感じた。③自分に自信をもつことで幸せになれると考えている。④私は私なんだから他人と比べる必要はないと思う。⑤友人からかけがえのない存在と言われ私は私のままで良かったと感じている。⑥「私は私」という前向きな考えをもっていこうと考えている。⑦私は私なんだと思えば個性も認めることの大切さに気づいた。⑧自分は自分だと思えるようになるまでじっくり悩み考えていけばいいんだと思っている。⑨今まで積み上げてきたものがないのでこれから毎日を充実したものにしていきたい。⑩ベッエッテイーノが「ぼくはぼくなんだ」にすごく勇気が感じられ私は私なりでいいんだと感じた。⑪辛いことやコンプレックスがあってもすべて自分をつくるものだと思えることができたり私は私なんだと思っている。⑫「私は私なんだ」と自信がもてる自分が今は好きである。

#### 存在探索中

①バラバラになった自分の部分品を拾い集めている状態である。②時には人の「ぶぶんひん」になったり、

時には誰かの「ぶぶんひん」になってみたりそうやって見つけていくものだと思う。③今はまだ部分品は少ししかないけれど今後一つ一つ部分品を自分にくわえていきたい。④生きる意味みたいなものは生まれた時にもっているものではないかもしれないので、私はその意味をみつけられるように生きていこうと思う。⑤私もベッエッテイーノが自分をみつけたように他人と比較せずに自分をみつめみつけていきたい。⑥ベッエッテイーノが自分をみつけたように私も自分をみつけだしていきたい。⑦自分にできることがあるならそれをがんばってやっけていき何らかの役に立てると信じ自分の存在がそのうちわかってくると思う。⑧日々喜んだり、落ち込んだり、悩んだりすることは必要なことである。⑨自分と他人を決して比較してはならない。⑩自分をわかることは難しい。⑪自分探しをしているのだと思えばベッエッテイーノがうらやましいと思った。⑫異性愛、家族愛の深さに共通するのは相手の為にどれだけ犠牲になれるかだと思うので自分をみつけていきたい。⑬私もベッエッテイーノと同じように自分探しをしていると思う。⑭大学生活もなれたシクラブ活動やアルバイトもやりながら自分について考えていくつもりだ。

#### 存在不確実感

①自分は何故生きているのだろうか。②自分は親や友人を頼りに生きている。③将来の自分の姿をつかむことができない。④最近自分という人間がどのような人間なのかがよくわからなくなってきている。⑤自分は部分品だとは思わないが自分が何かもわからない。⑥自分がどういう存在であるのか明確に示すことはできない。⑦過去の自分を振りかえって本当に「自分」があったのか考えてしまう。⑧自分に足りないものは何だろうかわからなくなっている。⑨目標がなくなってしまった。⑩人間は誰しも自分の存在価値が欲しいと思っている。⑪ベッエッテイーノのように自分のなかにある才能に気づいていないような気がする。⑫自分はまだ自己の確立ができていないと思う。⑬自分の小さな社会でいい気になって広い社会のなかの一員としての自分に目を向けていない。⑭他人と同じ位置に立つ

ためにはどうしたらよいのか、どうすべきなのかを探している。⑮ありのままの自分を好きになってもらいたいが今まで積み上げてきたものがない。⑯自分は誰かの役に立っているのだろうかと不安になることがある。⑰友達からどう思われているのか、必要とされているのか、気になっていつも何も始まらない。⑱友達に必要とされているのであろうか考え込む自分がある。⑲まだ自立していない私は親の付属品と考えてしまう。⑳自分が必要とされることは、はっきり目にはみえない、わからない。㉑自分とは何だろうわからない 他3名。

### 自己へに気づきに関するもの

#### 対自的自己

①自分のすることは周りの人を傷つけたり迷惑をかけている。②自己主張が強すぎると反省している。③人間というものがこんなにも弱くもろいものとは思わなかった。④自分で逃げ道を探していた。⑤いかに自分のことを知らないかということに気づき他人ばかりに目がいった。⑥表面的には真面目、大人しい、でもそれはそう見せている自分だと思う。⑦なんだかんだいって世間の大学というブランドに拘わっている自分かもしれない。⑧今の自分はかなり自暴自棄で情緒不安定である。⑨自分は他人に甘えていたり、人のせいにしたりで欠損していると思う。⑩人に頼られることに恐怖心が募る自分がある。⑪どうしても人を気にしてしまう自分がある。⑫自分に自信がなく自分を好きになれない。⑬人の精神というものは弱いものであるということに気付いた。⑭うらやむ人に近づくことばかり考えて「自分らしさ」というのを全く意識していなかった。⑮自分は精神的に弱く脆い。⑯自分に自信がないし、卒業できるだろうか考え込むことがある。

#### 対他的自己

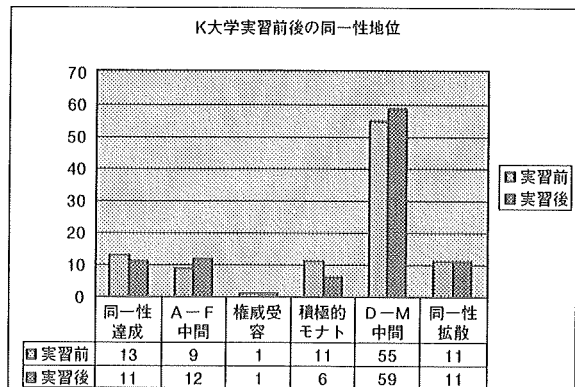
①劣等感にすごく敏感になっており劣等感を感じる気持ちと認めたくない気持ちの繰り返しである。②他人と比較してばかりだった。③他人のよいところばかりがうらやましく思え「どうして自分には素質がないの

だろう」とよく思う。④自分はなぜみんなみたいにできないのだろうと考えこむ。⑤いつも他人と比較しながら生きているような気がする。⑥他人が持っていて、自分が持っていないものをうらやんで劣等感をもって生活してしまう。⑦周囲がとても生き生きとしていて自信に満ちているように感じる。⑧他人と違うことをすることを恐れる自分がある。⑨すごくちっぽけで何の価値もない人間だと感じている。⑩自分の身体面や性格の短所が気になって仕方がない。⑪友人をうらやましく思う反面友人にいらだったりもする。⑫人と比較して自分はこんなにも嫌なやつなんだろうと思う。⑬友人や他の人と比べて自分に情けなく感じる時がある。⑭ちっぽけな自分だと感じている。⑮異なる出身地の人が集まり、かなり不安と劣等感があった。

## 2. 自我同一性測定尺度での現在の自我同一性地位について測定した結果

1回目に測定したK大学における看護学生の自我同一性地位は、同一性達成地位13%、A-F中間地位9%、権威受容地位1%、積極的モラトリアム地位11%、D-M中間地位55%、同一性拡散地位11%であった。基礎実習I・IIを経験した後に、2回目に測定したK大学における看護学生の自我同一性地位は、同一性達成地位11%、A-F中間地位12%、権威受容地位1%、積極的モラトリアム地位6%、D-M中間地位59%、同一性拡散地位11%であった。図1参照。

図1 K大学における基礎実習I・IIの経験前後との自我同一性地位の比較



注：数値は%

なお、基礎実習の経験の有無との関連で自我同一性地位について該当する看護学生106名について比較すると、基礎実習に行く前より自我同一性地位が高くなった看護学生は24%、自我同一性地位が低くなった看護学生は29%、変化が無かった看護学生は47%であった。図1参照。

### Ⅲ. 考 察

今回、レオ=レオニのペッエッテイーノを教材として使用し、K大学において将来看護職を目指していくであろう現在の自己についてみつめさせ、学生の同一性形成がどのような現状にあるのかについて知ることを目的に授業を展開した。

記述内容から、ペッエッテイーノに触発されたり、ペッエッテイーノに自己を投影させたりしながら、“大学生としての現在の自分”“看護学生としての自分”を感じとっていることが推察された。そして、記述していくことで自己自身や将来看護職につく自己への問い直しをしたり、親や友人等との他者との関係の中での自分というものについてポジティブに実感したり、ネガティブに実感していることが伺えた。まず、レポートの結果から考察していく。

「自我領域形成に関するもの」は50個(46%)と最も多く、「存在確実感」において自己肯定や自己受容的な言葉が、「自己探索中」において葛藤のなかで肯定的に自己確立にむけての探索な言葉が、「存在不確実感」において自己の存在への戸惑いの言葉がみられた。

次に多かったのが「自己への気づきに関するもの」31個(29%)で、「対自的自己」において自分の性格や傾向に関する言葉が、「対他的自己」において他者との比較における自尊感情の低下に関する言葉が主にみられた。

「職業領域形成に関するもの」は28個(26%)と最も少なく、「方向確実感」においては悩みながらも看護師への道を模索しているという言葉が主にみられ、「方向不確実感」においては看護職の道を歩むことへの疑問と戸惑いに関する言葉がみられた。

今回、「職業領域形成に関するもの」が26%と低かったのは、横山<sup>12)</sup>や奥村<sup>13)</sup>の先行研究にみられるように、大学へ入学してきている学生は、一般教養の時間数が多く幅広い知識を得られこと、卒業後も看護師以外の選択肢が多いことから志望してきており、何らかの形で看護職へつけば良いと考え看護職へつくことの実感が少ない傾向にあることとの関連や、今回の授業の展開においてペッエッテイーノの話の直後にレポートさせ、青年期の特性の講義(職業同一性形成に関する話等)最後にしたことから、“大学生としての現在の自分”の方が、ペッエッテイーノに自己を投影させやすかったのではないかということとの関連が推察された。また、大学4年間における2年生の時期との関連において、岩本は「2年生は、自己実現において高校時代よりも好ましくない方向に変化しており、学習への動機づけが重要」<sup>14)</sup>と述べている。K大学において領域別の臨床実習は3年生から始まる。2年生は大学生生活にも慣れ、この時期から専門科目が多くなったとはいえ始まって間もない時期であり、他の学年に比べ課外活動やアルバイトを始める学生が多くみられるようになる。2年生は、4年間のうちで職業的関心が最も低くなる時期ではないかということとの関連も推察された。それともうひとつには、筆者の青年期の時代と比較すると現在は価値の変動が短期のサイクルで起こり、多様な価値観のなかで生きなければならぬ状況がある。そのような中、現代の青年期にある看護学生にとって、自分を定位して

いくような職業形成にむけての既存の価値をみつけることが難しいことも関連しているのではないかということも推察される。

ところで水野は、青年期の自我同一性の確立について、「自分についての連続性の感覚をもち、なりたい自分と社会における役割取得を統合している状態といえよう。……………自我を確立することと社会の中で自分を位置づけることができたとき、自我同一性が確立されたとみることができる」<sup>15)</sup>と述べている。筆者は、今回自我同一性の確立について、「自分は独自の存在であり、一貫した自分らしさ自分というものについての確立ある体験をしていることを自我領域の同一性が形成されている状態」と考え、次に「社会の中から期待されている役割や要請に対して吟味し社会とのつながりの中で自分を自覚し自分らしさを実感していることを職業領域の同一性が形成されている状態」と考えた。自我領域の同一性形成と職業領域の同一性が統合された状態のなかで確かな自分を実感している状態を自我同一性の確立の考えた。それで、自我同一性の確立までの段階を水野の考えを参考にして筆者なりに今回の3群を整理していくと、まず今まで生きてきた自分のあり方について気づいていく第1段階の自己への気づきに関するグループ、自分が自分であることについて葛藤したり確信をもてるようになる個人的側面の強い第2段階の自我領域形成に関するグループ、社会のなかでの自己について自覚したり葛藤したりしながら社会的な個人としての役割を自覚し統合していく第3段階の職業領域形成に関するグループというように、段階的に自我同一性確立が形成されていく状況にわけることができるのではないかと考えた。では、同じ学年でもなぜこのような段階的な差がでてきているのかについて以下検討してみた。

近藤は、10年前と現在の短大生の職業関心領域の比較において、現在の学生は現実的な職業への関心が高く、さらに対人関係や慣習的な職業、企画・運営などの職業へ関心があり、これは現代の高校生が現実味のある職業選択する傾向と類似した職業志向であると述べている。<sup>16)</sup> 渡辺も高校生に専門職志向が浸透してきていることを述べている。<sup>17)</sup> この背景には、日本経済の低迷からくる資格取得に対する偏重、進路指導や親の希望で入学する学生が増えてきていることを示唆しているものとする。そうした時、職業領域形成において重要になってくるのは、どれだけ将来看護職になるのかという内発的な動機づけのもとに入学してきたかについて再度着目していく必要があるのではないかと考える。このことについて、渡辺は、学生の職業観は、入学時の看護師志望度、入学当初の目的に応じて形成され、職業選択に至るという可能性が示唆される<sup>18)</sup>と述べている。先行研究においても早期に看護職になろうという動機がある学生ほど、学習意欲や卒業まで看護職への肯定感や意志をもつことができると報告されている。<sup>19) 20)</sup>

以上のことから、高校時代から（もしくはそれ以前から）看護職になりたいという明確な動機づけのもとに入学してきた学生と外発的な動機づけまたは何となく入学してきた学生との間において入学後1年経過して現れてくる当然の差異と考えられるのではないだろうか。

なお、武藤は、「学生相談所で会った学生達のなかで、主に進路についての相談やさまざまな情報を尋ねに来談した多くが、なんとなくこのままではいられないが、自分自身何を求めているかがはっきりしないというような状態だった。……問題を認識して悩む主体であるはずの『自分というもの』が希薄な人



が多いのが特徴であった。」<sup>21)</sup>そして、「かなり一般的な傾向として『葛藤し自己探求する基盤としての自分というもの』が希薄になってきているという印象は免れえない。」<sup>22)</sup>と述べている。このことは、青年期のアイデンティティの形成の仕方が、現代の若者達にとって自立的な自己確立の経過ではなくなっている傾向を示していることを意味しており、葛藤することそのものをも示唆しなければならない状況にあることを示しているものと考ええる。当初筆者は、考えていなかった第1段階の「自己への気づきに関する」群について新たにグループ分けをしたが、そのこともふまえて、今後の教育展開において念頭においていかなければならないこととして考えさせられた。

次に、職業領域形成に関する「方向不確実感」において、「あんなになりたかった看護師だったのに自分にむいているのだろうかという疑問と現在戦っている」「現在あんなになりたかった看護師だったのにこのまま卒業していいのかという疑問と戦いながら日々を過ごしている」「幼稚園のころからなりたいたと思っていたが現在悩んでいる」「看護職へなりたいたと考えこの大学へきたが将来への不安を感じている」等の記述がみられた。

看護学生は入学すること自体が職業選択を意味しており、その教育課程の大半が看護職につくために必要な基礎となる専門教育にあてられる。自由な時間や身分を享受している一般の大学生と比べると、生や病苦・死について真正面から取り組むことが要求され、職業人になる準備にその教育のほとんどがあてられる。いくら高校時代（それ以前）から看護職になる動機づけが明確であったとしても、実際に学ぶ中で戸惑いやストレスが生じ危機に陥るのではないだろうか。危機に陥ることも自我領域や職業領域形成にとって大切

なことなので、その時に教師がどのようなパーソナリティの形成や自己成長をとげることができるような関わりするのかが重要になってくるものと考ええる。

近藤は、情報学科学生との比較において、「看護学生は社会型パーソナリティに強い感受性を持ち、人に接することが多い看護学科を選択している。看護学生のパーソナリティは未熟であり、認知領域や技術領域のみならず、学生の成長過程を促進するような教師の支援も重要な役割である」<sup>22)</sup>と述べている。河村も、「現代の看護学生にとっては、看護師志望の強さ、また、3年間の学習を通して自分を成長させ、自己実現できることが看護師のアイデンティティ形成を進める大きな要因であるといえる」<sup>23)</sup>と述べている。

そうした時、2年次は専門科目の授業や演習が主になる訳だが、日常的に「自分というもの」について感じたり、表現できるような教育、例えば今回のような教材活用や記述の機会を授業のなかで設けていくこと、グループでの話し合いや意見・感想を通して看護職になることへ（職業領域形成にむけて）主体的に探索していけるような教授法や教材吟味、そして、現代の学生の風潮を充分考慮いれ自己を育み成長していけるような教育について検討していくことは重要な課題ではないかと考える。

なお、筆者らの学生時代には、基礎実習にいく前に戴帽式があり、ひとつの職業領域の同一性形成にむけて通過儀礼として実施されていた。戴帽式は、入学した後に看護職になる動機づけとして、カリキュラムのなかで職業領域形成にむけて重要な位置を占めていたものと考ええる。しかし、戴帽式の是非が問われ、最近ではほとんど実施されていない。そうした時、基礎実習は看護職となる動機づけとして重要な位置を占めているものと考え

る。それで、職業領域の同一性形成にむけての教育を検討していくうえで、基礎実習経験後、自我同一性の地位がどのように変化するかについて把握する必要があると考えた。筆者は、基礎実習を体験することを通して、4地位の割合が変化し、自我同一性地位が高くなる傾向にあるのではないかと考えた。

K大学において2年次の夏休み前に基礎実習Ⅰ、夏休み後に基礎実習Ⅱが実施される。今回、自我同一性地位の基礎実習Ⅰ・Ⅱの経験の有無における変化はさほどみられなかった。また、基礎実習に行く前より自我同一性地位が高くなった学生は24%、自我同一性地位が低くなった学生は29%、変化が無かった学生は47%であった。安藤は、自我同一性地位テストの成績に基づき、看護学生の看護職に就く意識構造について、発達推移や入学時希望職種パターンや受験時進路への両親の態度等の属性の職業意識に関する影響について研究している。その結果、職業的同一達成因子が1学年では高値をとっているが、1学年から2学年にかけて大きく低下している。これは、看護の講義内容が臨床実習などの実態と大きく食い違う点にその一因があらうと報告している。<sup>25)</sup>

今回、1年次から追跡しておらず基礎実習前後の比較であった。安藤の時代と比し10年経過し看護学生の風潮も変化してきていると思うが、基礎実習は学生にとって看護職を志す上で重要な動機づけをおこなう実習である。今回、基礎実習Ⅰ・Ⅱの経験の有無との関連はみられなかったが、自我同一性地位が低くなった学生は29%いたことに着目していく必要があると考える。吉永は、臨床実習への適応と自我同一性の間の相関を報告している。<sup>26)</sup>これは、ひとつにはK大学において、基礎実習Ⅰと基礎実習Ⅱの間が1カ月しかないことからゆとりがないことが影響している

ことと、基礎実習における教育環境の問題が加味しているのではないかということが推察され、学生に対して看護職への動機づけとなるような教育環境や教員の関わりの見直しを検討していくことが示唆された。

なお、K大学において平成15年度の新カリキュラムから、1年次の5月に早期体験学習2日間、1年次の終了時に基礎実習Ⅰが、2年次の夏休み前後に基礎実習Ⅱが実施される。このことは、学生の学習進路状況や適応状況に応じた職業領域の同一性形成を図るうえで無理のない展開であると考えられる。新カリキュラム以後の学生の今後の変化を期待している。

## 結 論

今回、レオ＝レオニのペッエッテイーノを通しての記述および加藤の自我同一性地位測定結果から以下のことがわかった。

1. 職業領域形成に関するものとして「方向確実感」「方向不確実感」、自我領域形成に関するものとして「存在確実感」「存在探索中」「存在不確実感」、現在の自己への気づきに関するものとして「対自的自己」「対他的自己」の7項目のカテゴリーが抽出された
2. 自我領域形成に関するもの46%、現在の自己への気づき29%、職業領域形成に関するもの26%の順で多く記述されていた。
3. 基礎実習の経験の有無（実習前と終了後）との比較において、自我同一性地位について変化はみられなかった。
4. 上記の結果から、職業領域の同一性形成にむけて葛藤することそのものを示唆しなければならないこと、主体的に探索していけるような教授法や教材吟味、そして、現代の学生の風潮を充分考慮入れた自己を育み成長していけるような関わりと教育について検討していかなければならないことが課題としてあ

がった。

### 引用文献

- 1) 園田雅代 他.職業的同一性の諸相とその構造 その1:SCT法による検討.日本心理学会第51回発表論文集.554(1983)
- 2) 松下由美子.看護学生における職業的同一性形成に関する研究.第20回 看護教育201~203(1989)
- 3) 松下由美子・木村周.看護学生の職業的同一性形成を規定する要因の検討. 教育相談研究31.29~45. (1993)
- 4) 小野寺杜紀.看護学生の学習及び専門職業的態度に関する考察(第1報).埼玉県立衛生短期大学紀要15.25~32(1990)
- 5) 鎌田みゆき 他. 看護学生の学習及び専門職業的態度に関する考察(第2報).埼玉県立衛生短期大学紀要16.45~52(1991)
- 6) 波多野梗子 他.看護婦の熟達化と職業的同一性.日本看護科学会誌11(3).130~131.(1991)
- 7) 安藤詳子 他.看護学生の職業的同一性形成.名古屋大学医療技術短期大学部紀要5.133~143. (1993)
- 8) 安藤詳子 他.看護学生の自我同一性に関する研究 —職業的同一性形成を規定する教育的要因—.日本看護研究会雑誌18(3).7~19.(1995).
- 9) 吉永紀久恵他:看護学生の自我同一性と実習適応感.神戸市立短期大学紀要8.11~19.(1991)
- 10) レオ=レオニ 谷川俊太郎訳.ペッエツテイナー.好学社(東京).1~20(1994)
- 11) 鎌幹八郎 他.アイデンティティ研究の展望.ナカニシヤ出版(東京).249(1995)
- 12) 横山美樹他:聖路加大学入学生の看護ならびに本学の選択動機.聖路加大学紀要22.72~80.(1996)
- 13) 奥村元子:最近10年間の看護系大学卒業者の就職状況.看護教育35(10)..784~787.(1994)
- 14) 岩本真紀:看護学生のライフスタイルにおける学年比較—高校時代から現在にかけての変化から—.第33回看護教育.194.(2002)
- 15) 水野正憲:自我同一性の型を測定する質問紙「自我同一性パターン尺度IPSの検討」.岡山大学教育学部研究集録第107号.151.(1998)
- 16) 近藤祐子他:10年前と現在の看護学生の比較からみた職業関心領域の変化.第33回看護総合.212~214.(2002)
- 17) 渡辺美香他:卒業を控えた看護学生の職業観大学と専門学校の比較.看護教44(3).238.(2003)
- 18) 渡辺美香他:17)同掲載.240(2003)
- 19) 真鍋淳子他:看護学生の看護師イメージの研究—大学生と短大生の比較—.看護教育35(6).427~433.(1994)
- 20) 寺島喜代子:看護専門学校生の学習意欲と自尊感情にもたらす入学動機の影響.福井県立大学看護短期大学部論集5.35~43.1997
- 21) 鎌幹八郎他.こころの科学セレクション アイデンティティ.日本評論社(東京).52(2001)
- 22) 鎌幹八郎他.21)同掲載.53(2001)
- 23) 近藤子他:看護学生と情報学科学生のパーソナリティタイプの比較 —Vocational Preference Inventory による—.第27回看護教育.154~156.(1996)
- 24) 河村彰美他:看護学生の看護婦志望理由・学習進度が看護婦のアイデンティティ形成に及ぼす影響.看護展望25(9).110.(2000)
- 25) 安藤詳子他.看護学生の自我同一性に関する研究—職業的同一性に関する研究—

職業的同一性形成を規定する教育的要因  
一.日本看護研究学会雑誌Vol.18 No. 3.  
7～19 (1995)

- 26) 吉永紀久恵他：看護学生の自我同一性と実  
習適応感.神戸市立短期大学紀要. 8. 11～  
19. (1991)

#### 参考文献

- 1) 川瀬正裕・松本真理子.新 自分さがしの  
心理学 ―自己理解ワークブッカー.ナカ  
ニシヤ出版 (京都) . (1997)
- 2) 堀洋道・山本真理子.心理測定尺度集 I 人  
間の内面を探る〈自己・個人内過程〉.サ  
イエンス社 (東京) . (2001)
- 3) 鑑幹八郎他：アイデンティティ研究の展望  
I・II.ナカニシア出版 (京都) .1995
- 4) 伊藤隆二他：思春期・青年期の臨床心理.  
駿河台出版社 (東京) .1994

## Study on Student Education for Vocational Identity Formation at Nursing College —Using “Pezzettino” by Leo Lionni as Teaching Material

Yasuyo MASUDA

### Abstract

Aiming to clarify the statuses of personal and vocational identities during adolescence, sophomores of Nursing Faculty in “K” University were encouraged to reflect upon themselves regarding their present state as a future nurse through the use of “Pezzettino” by Leo Lionni as teaching material, and underwent the measurement of their identity status by the Ego Identity Scale. Total 7 categories were extracted from students’ reports on “Pezzettino” : “certainty on one’s direction” and “uncertainty on one’s direction” regarding the domain of occupational identity; “certainty on one’s existence”, “searching for one’s existence” and “uncertainty on one’s existence” regarding the domain of personal identity; and “etre-pour-soi” and “etre-pour-autrui” regarding awareness of present self. Furthermore, their reports most often touched upon the domain of personal identity, followed by awareness of present self and the domain of occupational identity. Comparison of identity statuses measured before and after taking the first and second practicum courses of basic nursing training revealed no changes in the students’ identity assessments.

Key words : nursing students, adolescence, identity formation, identity status